

事業評価個票（事業実施：平成29年度～令和2年度）

（様式1）

事業名	オリンピックメダリスト育成事業費					活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度																	
部局名	教育庁						①国体出場者数（単年度）	活動実績	人	432	454	493	秋季大会中止																		
担当課名	スポーツ保健課 競技力向上・アスリート育成推進室							当初見込み	人	490	490	490	490	490																	
事業開始年度	平成29年度	事業終了(予定)年度	未設定				②スポーツタレント育成人数（累計）	活動実績	人	258	288	318	348																		
総合発展計画実施計画の位置付け	政策の柱、政策	[政策の柱1] 次代を担い地域を支える人材の育成・確保 [政策2] 生涯を通じた多様な学びの機会の充実						当初見込み	人	258	288	318	348	378																	
	施策	[施策2] 県民や地域に活力をもたらす多様な学びの促進					成果指標（所管部局の分析）	成果実績	人	6(0)	-	-	-	5(0)																	
	目標指標	-						目標値	人	冬季1以上(1以上)	-	-	-	夏季5以上(1以上)																	
事業の目的	オリンピックに向け、選手の育成やサポート体制の充実・強化を図ることより、本県関係選手のオリンピックでの活躍、メダリスト輩出を目指していく。また、本県関係選手の活躍により、県民に夢や感動を与え、自信と誇り、郷土愛を育み、活力ある県政発展に寄与することを目的とする。					成果指標及び成果実績 (アウトカム)	達成度	%	600%(0%)			※オリンピック延期	100%(0%)																		
事業概要	(1) 平昌・東京オリンピックに向けた選手の育成など本県スポーツの競技力向上 ①オリンピック候補選手の活動支援 ②競技団体等を通じた県全体の各種強化策を推進（国体等の強化策を含む。） ・競技団体ごと強化練習、合宿、トレーニングなど専門的な強化を実施 ・競技スポーツ戦略会議により、選手選考や強化の計画を分析・展開						①本県ゆかりのオリンピック出場者数（うち、メダリスト人数）	成果実績	人	3	7	7	-																		
	(2) 次世代のメダリストの育成 ①オリンピックや国際大会で活躍する選手育成に向けたプログラムの展開等（年代別の代表選手等の育成）					②スポーツタレント発掘事業の修了生における日本代表（年代別代表を含む。）		目標値	人	3以上	4以上	5以上	6以上	6以上																	
	(3) アスリートを支えるスポーツ医・科学の充実強化 ①アスリートチェックやトレーニングプログラムの提供						達成度	%	100%	175%	140%	※各大会開催中止																			
	活動指標及び成果指標設定の考え方																														
<<活動指標>> ①全国トップレベルの大会である国民体育大会で活躍することが、オリンピックなど国際舞台での活躍の基礎となることから、国体の参加者数を設定。 ②トップアスリートを輩出するには、ジュニア期の発掘・育成が必須であることから、プログラムによる育成人数を設定 <<成果指標>> ①日本選手団の想定数のうち1%を本県ゆかりのオリンピック出場者数と見込み、うち1名以上をメダリスト人数として設定 ②オリンピックメダリスト輩出に向けて、世界で活躍する次の世代の育成が重要であることから、県の育成プログラム経験者による日本代表数（年代別代表を含む。）を設定。																															
事業所管部局による評価・検証（令和3年7月）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> <th>評価に関する説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要性</td> <td>A</td> <td>「第6次山形県教育振興計画（後期計画）」において、[県民に元気と感動を与えるスポーツの推進]を主要施策に位置づけて選手強化等に取り組んでいる。具体的には、県全体から選抜された選手を集めた専門的な技術強化や団体競技での戦術理解、ジュニア世代の競技適性の診断など専門的分野を県が担っている。一方、普段の個人練習や基礎力強化は所属する企業や団体、市町村のスポーツクラブや学校部活動等が担うことにより、役割分担しながら県全体での競技力向上を目指している。</td> </tr> <tr> <td>事業の効率性</td> <td>A</td> <td>競技スポーツの強化やアスリートの活動支援に当たり、補助対象となる経費等を精査の上、支援を行うことにより、競技団体や選手本人も費用の一部を自己負担するなど適正な費用負担を図っている。</td> </tr> <tr> <td>事業の有効性（達成度）</td> <td>A</td> <td>競技スポーツの強化補助の対象や育成事業の実施方法について随時見直しを行い、事業の効率化やコストの低減を図っている（R3事業費は、H29比で約4割削減）。また、パラリンピックを所管する健康福祉部と役割分担を行っている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>国体出場者数については令和元年度に493名になり、スポーツタレント発掘事業の参加者も令和2年度時点で累計348名になるなど、概ね見込みどおりの活動実績となっている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> <td>2018平昌冬季オリンピックでは、メダリストの輩出はできなかったものの、スピードスケートにおいて4人が入賞を果たした。また、夏季オリンピック出場数で見ると、2012ロンドン：0人、2016リオデジャネイロ：2人、2020東京：5人と着実に成果が表れている。また、年代別日本代表者数も、令和元年度に7人輩出するなど、次世代のアスリート育成も進んでいる。</td> </tr> </tbody> </table>														項目	評価	評価に関する説明	必要性	A	「第6次山形県教育振興計画（後期計画）」において、[県民に元気と感動を与えるスポーツの推進]を主要施策に位置づけて選手強化等に取り組んでいる。具体的には、県全体から選抜された選手を集めた専門的な技術強化や団体競技での戦術理解、ジュニア世代の競技適性の診断など専門的分野を県が担っている。一方、普段の個人練習や基礎力強化は所属する企業や団体、市町村のスポーツクラブや学校部活動等が担うことにより、役割分担しながら県全体での競技力向上を目指している。	事業の効率性	A	競技スポーツの強化やアスリートの活動支援に当たり、補助対象となる経費等を精査の上、支援を行うことにより、競技団体や選手本人も費用の一部を自己負担するなど適正な費用負担を図っている。	事業の有効性（達成度）	A	競技スポーツの強化補助の対象や育成事業の実施方法について随時見直しを行い、事業の効率化やコストの低減を図っている（R3事業費は、H29比で約4割削減）。また、パラリンピックを所管する健康福祉部と役割分担を行っている。		A	国体出場者数については令和元年度に493名になり、スポーツタレント発掘事業の参加者も令和2年度時点で累計348名になるなど、概ね見込みどおりの活動実績となっている。		B	2018平昌冬季オリンピックでは、メダリストの輩出はできなかったものの、スピードスケートにおいて4人が入賞を果たした。また、夏季オリンピック出場数で見ると、2012ロンドン：0人、2016リオデジャネイロ：2人、2020東京：5人と着実に成果が表れている。また、年代別日本代表者数も、令和元年度に7人輩出するなど、次世代のアスリート育成も進んでいる。
項目	評価	評価に関する説明																													
必要性	A	「第6次山形県教育振興計画（後期計画）」において、[県民に元気と感動を与えるスポーツの推進]を主要施策に位置づけて選手強化等に取り組んでいる。具体的には、県全体から選抜された選手を集めた専門的な技術強化や団体競技での戦術理解、ジュニア世代の競技適性の診断など専門的分野を県が担っている。一方、普段の個人練習や基礎力強化は所属する企業や団体、市町村のスポーツクラブや学校部活動等が担うことにより、役割分担しながら県全体での競技力向上を目指している。																													
事業の効率性	A	競技スポーツの強化やアスリートの活動支援に当たり、補助対象となる経費等を精査の上、支援を行うことにより、競技団体や選手本人も費用の一部を自己負担するなど適正な費用負担を図っている。																													
事業の有効性（達成度）	A	競技スポーツの強化補助の対象や育成事業の実施方法について随時見直しを行い、事業の効率化やコストの低減を図っている（R3事業費は、H29比で約4割削減）。また、パラリンピックを所管する健康福祉部と役割分担を行っている。																													
	A	国体出場者数については令和元年度に493名になり、スポーツタレント発掘事業の参加者も令和2年度時点で累計348名になるなど、概ね見込みどおりの活動実績となっている。																													
	B	2018平昌冬季オリンピックでは、メダリストの輩出はできなかったものの、スピードスケートにおいて4人が入賞を果たした。また、夏季オリンピック出場数で見ると、2012ロンドン：0人、2016リオデジャネイロ：2人、2020東京：5人と着実に成果が表れている。また、年代別日本代表者数も、令和元年度に7人輩出するなど、次世代のアスリート育成も進んでいる。																													
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他（ ）					上記実施方法とする理由：事業実施主体となる県スポーツ協会及び競技団体に対して補助金を交付することで、より効果的、効率的な事業執行が可能となるため																									
当初予算額 (単位：千円)	費目 (予算見積書グループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	事業の効率性	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。																							
	(1)①オリンピック特別活動支援	18,000	12,500	7,900	0	0		事業の有効性（達成度）	活動実績は見込みに見合ったものであるか。また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。																						
	(1)②競技スポーツ強化	54,917	53,644	52,248	51,171	45,190			事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。また、類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。																						
	(1)②競技力重点強化	3,652	2,196	1,408	0	0			成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。																						
	(1)②駅伝競走特別強化	2,301	2,219	1,953	1,914	1,825																									
	(1)②野球強化	1,310	1,270	1,232	1,197	1,161																									
	(1)②競技スポーツ戦略会議	3,248	3,196	452	238	231																									
	(1)②県体育団体組織強化	5,700	5,700	5,500	5,500	0																									
	(2)オリンピック選手輩出プロジェクト（県スポーツタレント発掘事業）	24,490	22,625	22,394	22,394	21,962																									
	(2)次世代アスリート育成強化	6,000	6,000	6,000	0	0																									
(3)スポーツ医・科学支援	10,662	22,319	25,617	24,502	3,663																										
計	130,280	131,669	124,704	106,916	74,032																										
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金						課題・改善点	・今回の東京2020オリンピックではメダル獲得はならなかったが、オリンピック出場者については、着実に増加している。また、スポーツタレント発掘事業（YAMAGATAドリームキッズ）の修了生が、年代別日本代表に延べ17人選出されるなど今後のオリンピック出場が大いに期待される場所であるが、県内において次代を担う子どもたちを指導する指導者の確保・養成も急務となっている。 ・スポーツ医・科学支援の取組は、県スポーツ協会等と連携しながら、引き続き選手への支援を進めていく。																							
	県債																														
	その他特定財源	8,247	8,246	8,000	22,394	21,962																									
	一般財源	122,033	123,423	116,704	84,522	52,070																									
計	130,280	131,669	124,704	106,916	74,032																										

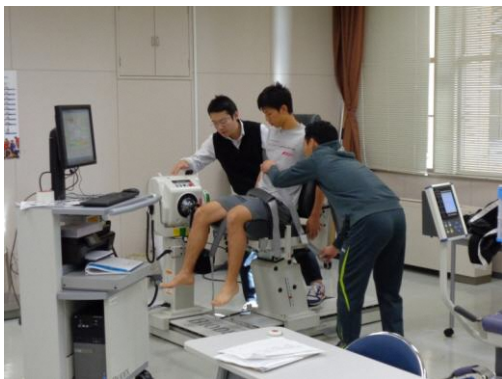
(評価基準)

A:目標を上回る成果、活動見込を上回って達成(100%以上)/B:概ね目標どおりの成果、活動見込を概ね達成(80～99%)/C:目標を下回る成果、活動見込を下回った(79%以下)

# オリンピックでの本県からのメダリスト輩出に向けた支援（新規） 32,855千円

## 目 的

- オリンピックにおいて、山形県にゆかりのある選手が活躍し、メダルを獲得することは、県民に大きな夢や希望を与え、県民の一体感を育み、郷土への自信や誇りの醸成にもつながっていく。
- 本県からのメダリストの輩出を目標に掲げ、選手の育成や支援を行う。



アスリート・チェック(脚力測定)



次世代メダリストの育成

## 事業内容

- (1) 平昌・東京オリンピックに向けた選手の育成 18,000千円
  - ・ オリンピックでの活躍、メダルの獲得が期待される選手及び選手をサポートする団体への支援制度の創設
    - 個人 20名 所要額 上限@ 300千円
    - 団体 3団体 所要額 上限@4,000千円
- (2) 次世代のメダリストの育成 6,000千円
  - ・ ジュニア期における系統的な指導体制の確立を図る団体への支援制度の創設
    - 団体 5団体 所要額 上限@1,200千円
- (3) アスリートを支えるスポーツ医・科学の充実強化 8,855千円
  - ・ スポーツ医・科学の拠点となる「マルチサポートセンター」の設置に向けた準備
    - 専任スタッフ2名の配置
  - ・ アスリート・チェックの実施や科学的なトレーニング・プログラムの提供

# オリンピックメダリスト育成事業費 実績一覧

## (1) 平昌・東京オリンピックに向けた選手の育成など本県スポーツの競技力向上

### ①オリンピック特別活動支援

東京オリンピックでの活躍・メダルの獲得が期待される選手個人や団体に対し、練習に関する施設使用料や遠征費、消耗品等の経費を補助〔R2 11人×300千円〕

### ②a 競技スポーツ強化

国民体育大会の実施競技に係る競技団体が行う選手・指導者強化育成に要する経費を補助〔R2 合計 23,022千円〕

### ②b 競技力重点（女性アスリート支援）

・女性アスリート競技力向上セミナーを開催〔R1 1回開催〕

〔R1 456千円〕

・平成29年度から国体における女子の新種目（自転車競技やレスリング競技）に対して育成強化事業を実施〔R1 5競技（自転車・ボクシング・レスリング・ラグビー・体操（トランポリン））競技に補助〕

〔R1 840千円〕

合計〔R1 1,296千円〕

### ②c 駅伝競走特別強化

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会（広島）、全国都道府県対抗女子駅伝競走大会（京都）に向けた県内外の合宿や強化練習会、現地直前合宿等を支援。〔R2（一財）山形陸上競技協会に補助 200千円〕

### ②d 野球強化

中学生の硬式野球・軟式野球の練習会や、高校野球の指導力向上講習会等の実施〔R2 766千円〕

〔R2 実績〕

・中学軟式：新人優秀指定選手強化練習会や強化試合の実施

・中学硬式：特別強化練習会や中学生硬式野球選手権大会の実施

・高校：指導力向上講習会や指導者レベルアップ研修の実施

### ②e 競技スポーツ戦略会議

競技力向上にかかわる強化方針等を検討する会議等の開催

〔R2 2回開催 238千円〕

### ②f 県体育団体組織強化

・（公財）県スポーツ協会が本県スポーツの競技力向上を図るため実施するスポーツ指導員及びスポーツ技術員を設置

〔R2 4名 4,497千円〕

・国民体育大会等にトレーナーを帯同する経費を助成

〔R1 4件 759千円〕

## (2) 次世代のメダリストの育成

### ①オリンピック選手輩出プロジェクト

小学3・4年生で選考した児童を5年間のスポーツ教育プログラムで育成〔R2 U-15 90名×2回、U-12 60名×5回 実施〕

〔R2 19,899千円〕

### ②次世代アスリート育成強化

競技団体での各段階における系統性のある指導に対して支援

〔R1 1,200千円×5競技団体〕

（カヌー・ホッケー・フェンシング・スキー・バレーボール）

## (3) アスリートを支えるスポーツ医・科学の充実強化

医療機関等と連携し、選手が体力測定や血液検査を受け、専門家から専門家から科学的根拠に基づく効果的なトレーニング法や体調管理法等の指導を実施〔R1 測定者96名 22,400千円〕